け、二酸化炭素(CO2)

## 2023.3.20

低炭素実現に協力していき 題に対して行動を起こし、 導入した。同社は「環境問

たい」としている。

重機は「ハイブリッド油

## CO2抑制重機導入 平田建設 従来より燃費40%低減

平田建設(長谷川雅毅社長) はゼロカーボン実現に向 【士幌・芽室】士幌町の | を宣誓。 植樹などの森林整 | 備・保全活動、 テレワーク

排出量を抑制する重機を 丁 (情報通信技術) の活用、 やオンライン会議などIC

> の導入などの取り組みを決 社有車のライトバン9台

池型のLED(発光ダイオ ライトを活用するなど脱炭 ード)を搭載したバルーン 替えた。工事現場では蓄電 車(HV)アクア」に切り をエコカー「ハイブリッド 効果があるとされる。

ルユニット) PCU (パワ 載されている 械の認定を受 ーコントロー けており、搭 酸素型建設機 は国交省の低 は自動車の電 同ショベル

|工場での省エネ型生産機械 |素を意識した社内の環境づ いる。 くりを進めて

源技術を活用



%程度低減するという。

同社は昨年5月、北海道

導入。燃費も従来機より40 6」で、管内では3社目の 圧ショベルΖH200-

芽室町の工事現場でお披露目された ハイブリッド重機

しつつ、振動

事業者が実践する「ゼロカ 北海道」の実現に向け、 が実施する「ゼロカーボン

ボン・チャレンジャー」

相当の温室効果ガスの削減 る。1日当たりスギ約50本 耐油性など建設機械特有 の使用環境にも適応してい が立ち会い、試験稼働では |お披露目された。社員15-がった。長谷川社長は 工事で13日、同ショベルが 「音が静か」などの声が上

| 管理部から受注した芽室町 側の熊牛御影線十勝橋架換 十勝総合振興局帯広建設 境に優しい工事の実現に ながれば」と話していた。 (大健太郎